

美術鑑賞教育へのワークショップ型授業の導入の試み

—— 群馬大学教育学部附属小学校の事例 ——

茂木 一 司¹⁾・足達 哲 也²⁾・鈴木 紗 代³⁾
金田 佳 子³⁾・吉崎 希⁴⁾・堀口 由美恵⁴⁾
遠藤 翠⁴⁾・山口 真央⁴⁾

- 1) 群馬大学教育学部美術教育講座
- 2) 群馬大学教育学部附属小学校教諭
- 3) 群馬大学大学院教育学研究科
- 4) 群馬大学教育学部学校教育教員養成課程

(2010年9月24日受理)

An experiment of the introduction of a workshop-like teaching into the art appreciation education

—— The case study of the elementary school in affiliate with the Faculty of Education, Gunma University ——

Kazuji MOGI¹⁾, Tetsuya ADACHI²⁾, Sayo SUZUKI³⁾
Yoshiko KANETA³⁾, Nozomi YOSHIZAKI⁴⁾, Yumie HORIGUCHI⁴⁾
Midori ENDO⁴⁾, Mao YAMAGUCHI⁴⁾

- 1) Department of Art, Faculty of Education, Gunma University
- 2) The elementary school in affiliate with the Faculty of Education, Gunma University
- 3) Graduate School of Education, Gunma University
- 4) School education teacher program, Faculty of Education, Gunma University

(Accepted on September 24th, 2010)

1. はじめに

昨年度の研究¹⁾に引き続き、ワークショップ(もしくはワークショップ型学習)＝参加体験型協同学習を学校教育に導入する試みの研究を実施した。私たちは、協同的学習としてのワークショップが今日の人間教育に必要なコミュニケーションの問題を考える上で重要なヒントを与えてくれるなどのメリットを考慮し、今まで学校外のワークショップに関するいくつかの実践と成果の報告を行ってきた²⁾。今回

も、学校外で不特定(多数)を対象とするワークショップでは有効なコミュニケーション性やコラボレーション(協同)性の高い学びは、学校(クラス)という特定の対象が継続的に学ぶ空間では有効か、そうだとすればどこがどのように優位性があるのかについて検討することを目的に、群馬大学教育学部附属小学校(以下附属小と省略)の足達哲也教諭の図画工作科「ふしぎな世界」(2/全4時間)の授業に学生ボランティアをファシリテータとして用いる実験をした。拙論では、その成果を足達教諭や参加

した児童、ファシリテータの感想などをもとに分析・検討する。

2. 研究の経過

群馬大学教育学部附属小学校は、公開研究「未来を見つめる自己を広げる子どもの育成」(H20年度から)の三年次として、「知識・技能等の活用を図り『学びの充実感・有用感』をもつ学習指導」をテーマに、図画工作科では「思いや願いを伝え合い、進んで美や価値を創造しようとする子供の育成」を研究主題にし、実践研究をした。

(繰り返しになるが)附属小(足達教諭)との共同研究で重視したのは、図工が単なる作品づくりの教科ではなく、クラスという共同体で学ぶときにおこる「気づき」や「発話(ささやき)」をどのように拾い上げ、共有していくのか、つまり図工における協同的な学びの有用性やダイナミズム、あるいはその時の学習環境のデザイン(ヒト:指導者、モノ:教材、空間:机の配置やグループ学習のレイアウトなど)の研究である。

昨年度は、ワークショップ型学習を支えるファシリテータの導入に関する研究を実施した。ファシリテータとは、グループ学習などの場合、チームをまとめながらみんなで協力し合うために、参加者の学びやチームの成長を促進するように支援する人で、共感的理解者として、コーディネータ(教師)と参加者(児童)の間に立って「facilitate(ファシリテート)促進する」役割で、「場づくり、つなぎ、取り持つ」「そそのかし、引き出し、待つ」「共に在り、問いかけ、まとめる」というように、上からの教師や指導者でもなく、あくまで「支援者」であり、新しい誕生を助ける「助産師」の役割を担う人である。

以下に、「ふしぎな世界」(2010年5月29日)の実践について、足達教諭の授業の省察とファシリテータのまとめを中心にその総括をしていく。

3. 「ふしぎな世界」の授業(5月29日)について

3.1 題材の内容と構想

本題材は、美術作品に表されているものを手がかりにし、その世界に表された人や生き物などの話していることを想像したり、物語をつくったりする協同的な活動を通して、美術作品について自分なりの解釈をつくりあげたり、それをもとに豊かに発想し表現したりすることを目的とし、マルク＝シャガールが描いた複数の作品を取り上げた。

本題材で大切にすることは、児童にとって鑑賞が単に答え探しにならないようにし、「みる」こと自体を学べるようにすること、また、鑑賞を鑑賞のまま終わらせず、鑑賞から表現へとつなげていくことである。そこで、本題材では、次の3つの学習活動を設けた。まず、児童相互の対話によって作品の解釈をつくりあげる鑑賞スタイルを体験的に知る活動である。ここでは、一つの作品を学級全体で鑑賞する。次に、より深く、創造的に鑑賞する活動である。ここでは、別の作品を用意し、同じ作品に興味をもった児童が集まってグループを編制し、登場人物の台詞づくりを通して、グループごとに作品を鑑賞することとした。最後は、鑑賞を通してとらえたことを表現につなげる活動である。ここでは、グループごとに鑑賞してとらえたことを土台とし、想像を膨らませて絵の世界に独自の肉付けを行いながら劇をつくる活動を設定した。

グループの規模は、児童の話合いが深まり、個が生かされる5人を上限とし、9グループ編制した。そして、グループにファシリテータを一人ずつ配置し、鑑賞題材においてファシリテータを導入する実験を試みた。

3.2 目標

想像の世界を表した絵に関心をもち、形や色、配置などの観点からとらえたことを結びつけながら見たり、とらえたことから想像を広げたりする。

3.3 評価規準

(1) 想像の世界を表した絵を見ることに関心を持ち、進んで絵の世界を考えようとする。

(4) 形や色、配置などの観点から表し方をとらえ、とらえたことを結びつけながら作品のよさをとらえる。

3.3 学習計画 (全4時間予定)

過程	学習活動	時間
ふくらませる・ねる ・ あじわう・ひろげる	○シャガールの「彼女をめぐって」を見て、表されているものを探し、とらえたことを結びつけて絵に表された世界を話し合う。	1
	○他のシャガールの絵をグループごとに見て、とらえたことを結びつけながら、絵に表された世界を話し合い、登場人物の台詞を考える。	1 (本時)
	○鑑賞した絵に表されたことから想像を膨らませて、新しい物語を考える。	2

3.4 本時の学習

(1) ねらい

形や色、配置などの観点から絵に表された世界を考えるを通して、作品の表し方をとらえ、とらえたことを結びつけながら作品のよさをとらえる。

(2) 準備

絵 (3種類) 付箋紙 図工カード



十戒の石板を授かるモーセ



戦争



エッフェル塔の夫婦

(3) 展開と指導の実際

学習活動	主な指導内容	コーディネータの具体的な動き
1 めあてをつかむ。 (5分)	○前時の学習でとらえた見方や感じ方を確かめる。 ○本時のめあてを児童とともにつくる。	○前時とらえたこと、話し合ったことをグラフィカルに示した掲示物を提示し、様々な手がかりを結びつけて、絵に表された内容を自分なりに想像してきたことを確認した。 ○本時は、それぞれの作品の登場人物の台詞を考えていこうと投げかけた。そして、その際、前時同様にグループごとに手がかりを見つけ、それらを結びつけていくとよいことを確認した。
2 表されたことや不思議に思うところを付箋紙に表し、整理する。 (15分)	○見たものや不思議に思うところを一つ一つ付箋紙に表し、絵に貼り付けるように指示をする。 ○付箋紙を内容ごとに集めてはり替え、いくつかのまとまりに整理するよう投げかける。 ○「天使と2人が気になるようだね。」など意見が集中した点をまとめることで、ポイン	○全体の進捗を見守った。この段階では児童が作品にじっくり向き合う時間が必要と考えた。そこで、ファシリテータのかかわり方を見て、児童に声をかけすぎている場合に、考える時間を大切にしよう指示した。 ○全体の様子をしばらく見守る。 ○どの児童もおおむね付箋紙に書き込みをしている様子だったため、見守り続けた。加えて、ファシリテータが別の視点から見るようながしたり、表されているものをたくさん見つけたことを賞賛したりしていたため、見守ることにした。 ○たくさん付箋紙を貼り付けたグループから、書き込んだ内容ごとにまとまりをつくり、見つけたことや不思議に思うところを整理するよう投げかけた。

<p>3 絵に表された世界について話し合う。(20分)</p>	<p>トとなる部分を明確にとらえられるようにする。</p> <p><みとりのポイント></p> <p>□表されているもの様子からとらえたことを結びつけ、絵に表された世界の理由として発言している。</p> <p>◎形や色、配置など、複数の観点からとらえたことを結びつけ、絵に表された世界の理由として発言している。</p> <p>○結びつけて考えられていない子供には、人物の視線や表情など、結びつきを示す点はないか問いかけ、絵に表された世界を考えられるようにする。</p> <p>○話し合いの中で、「花束を差し出したのは、なぜ天使なのだろう。」など、新たな切り口を示すような問いかけをし、視点を変えたり見方を深めたりして絵に表された世界を考えられるようにする。</p>	<p>○見つけたことや不思議に思うところについて、自分なりに考えたことを出し合うよう全員に投げかけた。</p> <p>○グループの話し合いの深まり具合に応じて、吹き出しに台詞を書き、作品に貼り付けるよう投げかけた。</p> <p>○グループの話し合いに深まりが見られず、堂々巡りを始めているグループに、新たな切り口を示すような問いかけをし、ファシリテータにつないだ。</p>  
<p>4 絵に表された世界について発表合う。(5分)</p>	<p>○鑑賞をして感じたことを発表するよう促し、どのような見方ができたかを共有できるようにする。</p>	<p>○上述のグループの中で、特に話し合いが深まったグループのリーダーに、話し合いの主な流れを発表するよう促した。</p> <p>○見つけた手がかりを結びつけて、独自の解釈をもっていることを賞賛した。</p>

3.5 題材のその後

本時の終末には、ファシリテータのうながしにより、鑑賞してとらえたことを踏まえて、新たな物語づくりに取り組み始めたグループが現われた。最後にそのグループの取り組みを紹介し、次時は、グループごとに物語づくりをしようと投げかけた。物語づくりでは、登場人物の性格付け、場所や時代などを詳しく決めて、独自の物語をつくって発表しようとして投げかけたところ、作品の近くに集まり、ワークシートに登場人物の性格や場面の設定など、細かく決め、独自の世界をつくりあげることができた。その話し合いの過程で、児童は次第に身振り手振りを交え、自然に劇づくりに移行していった。

場面は「天上界」や「北極」、『「別の惑星」、『あの世大戦』での舞台など』、子供らしく発想豊かなものが多かった。そのほとんどは架空の場所やシチュエーションのものであったが、共通していたことは、話の筋や主題が、本時鑑賞して見出した独自の解釈から大きく外れず、劇づくりを通して、むしろ、作者の意図や主題を言い当てたのではないかと思う発言や台詞が多く現われたことである。「モーセの十戒」についての知識をもたない子供たちが、石板を貴重な宝の薬の目録ととらえ、人類を救う神からの賜としてその場面を再現したり、戦争の愚かさや無益さ、醜い人の心の有り様を、仲違いした村人同士の間で争いになぞらえたりする児童の発言や発表を聞く


と、劇づくりなどの表現活動を通して、感性が働き、結果として作品をより深く味わうことにつながるということが分かった。

1678 (イギリス・アパール)

図工カード5年 平成22年6月2日

ふしぎな世界

5年4組 2班
名前 (4)
(23)
(26)
(29)



★ 不思議な世界の様子を表した作品をもとに、オリジナルストーリーを作ってみましょう。

- ここはどこか、どんな場面か考えよう。
- 登場人物はだれか、どんな性格か、何をしているのか想像しよう。
- 自由に、そして、具体的に想像して、この絵に合ったストーリーにしよう。

※できるだけ、書きましよう。


ここは、1678年、イギリスでおきたとあるお話...
ある男の人が人殺しをしてしまったという噂がながれた。
でもその人は人殺しをしていないのにうたがわれて、しけいにされて
しまった。でも死んでも、この村をにくみつけ、ついにあんりょうとなつて
村を焼きつけてしまった。
すると、空から、白いものがふってきた。なにかと思うときつだいな
ヤギと小さな子ヤギがふってきた。てんしのようにおりてきた。そして子
ヤギは火事の中にいって、村の人々を助け出した。そして大きなヤギ
は、村の人々と一緒に戦った。
そして数か月後、まるで戦争がなされたかのように火は消え、戦争も
なくなっていた。
あのヤギは一体なんだったのだろうか？いまだにけいん
不ぬいとなっている。

4. ファシリテータによるグループごとの学びのプロセスのまとめ

鈴木班

○ファシリテータ：鈴木紗代

教師には▼、子どもは・、ファシリテータは○、その他は□

時間	授業の展開・子どもの主な活動と写真	教師(コーディネーター)・ファシリテータ・子どもの発言とファシリテータの感想など
	<p>●カラーの絵を見ながら、気付いたことを付箋紙に書き、白黒の絵の方に貼る。</p>  <p>付箋紙に意見を書く</p>	<p>ティア (T)、森 (R)、ムット (M)、いなむ (I)</p> <p>○「何か気付いたものとかことはある？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T 「天使がいるよ」 ・ R 「これ(石版をみて)、食パンかな?何だろう?」 ・ I 「文字が書いてある」 ・ M 「お墓の石板かな?」 ・ I 「神様みたい。えっと、そうだ。ゼウスだ。」 <p>○「どうして神様なの？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 「色が白いし、冠をかぶっているから」 <p>石板やモーセ、左下の人たちに対する気付きが多く出るが、背景の色などの表現に関することはほとんど出ない。また、モーセのことを神様(ゼウス)ではないかという意見がでる。気付いたことと同様に、石版やモーセに対する意見が多く出る。</p>
	<p>●気付いたことから、さらに考えたことについて付箋紙に書き、貼る。</p> <p>●子どもたちの意見を聞きながら、どのような場面かを話し合う</p>  <p>付箋紙に意見を書く</p>	<p>○「色々意見が出たね。みんな一番注目したのはどこ？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 「ゼウス。(モーセを指す)」 <p>○「そうだね。この人を中心に意見がたくさん出てるね。じゃあ何してるのかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ M 「何かの儀式みたいなやつしてるんじゃないかな?下に人もいるし」 <p>○「どんな儀式？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 「ゼウスが神様に食パンをあたえる儀式」 <p>○「これ(石版を指す)が食パン?何で？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 「食パンみたいだから?」 <p>○「他の意見もあるね。ムットはどう思う？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ M 「お墓の石かな?」 <p>○「何で？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ M 「文字みたいなのが書いてあるから」 ・ I 「そうだ。この板をこの手と取り合ってるんだ」 <p>○「じゃあ、この手は何かな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 「ゼウスの敵。何だっけ?そういう神様いたよね」 ・ R 「いる。何だっけ?」 <p>○「ハデスとかオシリスとか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R 「そうだ。ハデスだ!」 <p>この意見から、モーセが「ゼウス」手の方が「ハデス」に決まる。</p>
	 <p>付箋紙に書かれた意見をまとめ、話を進める</p>	<p>○「ティアちゃんは何だと思う？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T 「わかんない」 <p>ティアはゼウスやハデスといった神様のことを知らなかったため、なかなか会話に参加しなくなっている。</p> <p>○「じゃあ、この二人の神様は何してるの?儀式？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 「この石板を取り合ってる」 ・ R 「石板は大事なものなんだよ」 <p>○「何で大事なもの？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R 「一番偉い神様になるために必要なもので、それをハデスが奪おうとしてる」 <p>石板について考え始め、どのような場面かが明確になっていく。</p> <p>身振り手振りを加え、ゼウスやハデスの台詞を言いながら説明している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 「これさ、石板じゃなくてゼウスのアルバムで、見られたくない写真とか入ってるんだよ。で、ゼウスが「やめろー」って言って、ハデスが「見せろー」って」 ・ M 「こっちがハデスじゃなくて、ゼウスの奥さんでお小遣いをとりあつてるとか。」 ・ I 「周りの人はさ、こぼれてくるお金をねらってるんだよ。「やったー。お金が降ってきた」って」



意見を書く



手とモーセについて絵を見ながら話す

●つくった話をまとめ、台詞を考える。



台詞を書く



完成図

今まで作ってきたお話を別のものに置き換えながら、違う話を作り始める。

○「誰の台詞を書く？」

・I「ゼウスとハデス」

○「じゃあ、それぞれ台詞を考えよう」

・R「ハデスは、「次の真の神は俺様だ」とか？」

・I「俺様だ~~~~って延ばそうよ」

・T「延ばして描くの？」ティアは、なかなか話し合いに参加できなかったため、台詞を書く役割を勧めてみると、積極的に参加し始めた。

・M「ゼウスは「お前になんかやらない」」

・I「ゼウスは「渡すもんか~~~~」」



各自意見を出し合いながら、台詞を決める。

各自が出した台詞は、意味がほとんど同じで特にもめることもなく決まった。

金子班

○ファシリテータ：金田佳子

教師には▼、子どもは・、ファシリテータは○、その他は□

時間	授業の展開・子どもの主な活動と写真	教師(コーディネーター)・ファシリテータ・子どもの発話とファシリテータの感想など
0分	<p>自己紹介</p> <p>みんなのあだ名を聞いて、みんなであだ名を覚える自己紹介ゲームをして親睦を深める(生徒は3人とも元気があり、すぐに打ち解けることができた)。(省略)</p>	<p>○「こんにちは、授業を始める前に自己紹介ゲームをしよう。まずはみんなのあだ名を覚えてね。私はよっちゃんだよ。よろしくね。」</p> <p>・「わたし T。」・「ぼくは K。」・「わたしは Y。」</p>
19分	<p>絵を見てふせん紙に書いて記録する</p>	<p>○「じゃあこのカラーの絵をみて描かれているものや不思議に思ったことをふせん紙に書いて白黒の絵に貼っていこう!」</p> <p>○「緊張してる? いっぱい先生がきているから、緊張しちゃうよね、よっちゃんも緊張しちゃった。みんな同じだから大丈夫だよ。」</p> <p>・「あはは(みんなで)!」</p> <p>・T「何でも書いていい?」</p> <p>○「もちろん、なんでも書いていいよ! Kも書いてね!」</p> <p>○「間違いないかひとつもないから、自分が思ったことをかいていこうね!」</p> <p>・Y「(真ん中の天使を指して) 愛をこわそうとしている悪い奴!」</p> <p>○「そうか、悪い奴かあ〜」</p> <p>・T「わかったこの下雨かな?(赤い地面を指して)」</p> <p>○「せっかくだから、紙に書いてごらん! みんなこの飛んでいる人(天使)気になるね!」</p> <p>・「うん」</p> <p>・Y「お花をあげてる!」</p> <p>○「そうだね、お花をあげてるね!」</p> <p>□「みんなの意見をひとつひとつあげてみる」</p> <p>・T「傘指している。」</p> <p>○「本当だ、良く見ているね!」</p> <p>□「ファシリテータが児童が貼ったふせん紙を一つ一つ読み上げてみる」</p> <p>○「雨が降っている、傘をさしている、木が横に生えている。そうだね。」</p> <p>・T「これエッフェル塔? あとは東京タワー?」</p> <p>○「そうだね、おもしろいね!」</p> <p>・K「これなんだろう?(天使が右手にもっているものを指して)」</p> <p>○「なんだろうね!」</p> <p>・K「わかった、花をいれるため」</p> <p>○「あー花瓶っていうこと? いいね、書いてごらん! K 良く気がついたね!」</p> <p>・T「あー船、馬だ!」</p> <p>○「本当だね、あーみんなよく気がついたね、よっちゃんびっくりしちゃう!」</p> <p>○「これは何?」</p> <p>・Y「お店?」</p> <p>・「車? 船?」</p>
	<p>見たものを記録する(見たものを一つ一つ書いて貼る)</p>  <p>1 ふせん紙に絵に描かれていることや、疑問に思ったことを書きこむ</p>	
24分	<p>考えたことやわかったことを記録する</p>  <p>2 考えたことやわかったことをふせん紙に書く</p>	<p>▼「わかったことや考えたことを書いて貼ってってください」</p> <p>○「例えば、みんなこの飛んでいることに注目していたけど、このことについてわかったことだれか書いてくれる?」</p> <p>・K「はい、書く!」</p> <p>○「ありがとう、じゃあ Y と T は他のことについて書いてくれる?」</p> <p>・Y、T「はい」</p> <p>□「ふせん紙に書かれていたこと」</p> <p>「花束もっている」「愛し合っている」「馬」「主役みたい」</p> <p>○「よーし、まとまったね、ありがとう」</p>
27分	<p>整理してみよう→</p> <p>ふせん紙がたくさん貼られているところを中心に話し合いをして絵の表わしている世界を決めていく(理由も)</p>	<p>○「じゃあ今度はこの塔がエッフェル塔に見えるかな? それとも東京タワーに見えるかな? 考えていこうよ!」</p> <p>・K「これ東京タワーじゃないと思うよ」</p> <p>○「K これがなんでエッフェル塔だと思うのか説明してくれる?」</p> <p>・K「なんとなくここに描かれている人が日本人ばくないから」</p>

ふせん紙がたくさん貼られているところを中心に話し合いをして絵の表わしている世界を決めていく（理由も）



3 みんなで話し合う



4 ふせん紙に貼られたこと

- 「あーそうか。Tはどう思う？（Tは東京タワーだと思っている）」
- ・T「うーん（すぐく考えているけど、答えがみつからなそうだった）」
- 「この赤い色だから東京タワーだと思ったのかな？じゃあYはどう思う？」
- ・Y「エッフェル塔は灰色だけど、東京タワーは赤い色だから東京タワーだと思う。」
- 「そうか、よっちゃんもどっちかわからないんだけど、三人みんなが同じ意見なのはこの建物は塔だってことだね！」
- ・K「エッフェル塔と東京タワーってどっちが高いの？」
- ▼「どっちだと思う？」
- ・K「ここに家があるからそんなに高くないのかな？」
- ▼「ここはどこ？」
- 生徒たちは考え込んでいる
- 「さっき描かれている人は外人みたいって言ってたね。東京タワーだったら描かれているのは日本だけど、エッフェル塔はどこかな？」
- ・「うーん」
- 生徒たちはまた考え込んでしまった。
- 「じゃあ違うところを見ようか？」
- ・K「でも東京タワーの可能性もある」
- 「どうして？」
- ・K「東京はビルがたくさんあるから。」
- 「そうだね、そういう見方もあるね。」
- ・K「エッフェル塔ってどこにあるの？」
- 「フランスのパリにあるんだよ。」
- ・K「フランスかあ。」
- ・Y「でも凱旋門が描いてないよ。」
- 「そうだね。とりあえずみんなで、この建物は塔だっていうことがわかったね。今度はこの飛んでいる人を見ていこうか！さっきTが愛をこわそうとしているといっていたけど、Kどう思う？」
- ・K「違うと思う。だって花をもっているから」
- 「そうかあ。（ふせん紙をみて）あ、結婚式しているって書いてあるね。」
- ・K「それはないと思う。ここは外だから。」
- 「この人たちはどこにいると思う？これは何だ？」
- ・Y「窓、家の中！」
- 「じゃあ結婚式をしているかも！」
- ・T「それはない、結婚式だったらウエディングドレスを着るけど、この人は着ていない。」
- 「（飛んでいる天使を指して）この人どのくらいの大きさだと思う？」
- ・みんなで「小さい。（手のひらぐらいだというように手で大きさを示す）」
- 「ではこの二人はどのくらいの大きさ？」
- ・K「大きいと思う。塔を遠くから見ているからこの人たちが大きく見るのだと思う。」
- 「そうか空間のことをいってくれたね。」
- ・K「このタワー遠いんだ。壁が本当ならあるけど、わざとなくしている。」
- 「すごいこと気がついたね。すごいね。じゃあこの飛んでいる人についてのふせん紙に妖精って描いてあるけどどう思う？」
- ・T「羽があるからそうだと思う。」
- 「そうだね、いいねT」
- ・Y、T「羽があるもんね。」
- 「じゃあ妖精かな。」
- ・みんなで「うん。」
- 「みんなの意見がばっちり一緒になったね、すごいね！」
- ・K「でも、まってこの世界が空想だったらこんなに小さく描かれなかったと思う。」
- 「そうか、みんなに質問。（地面を指して）この赤はなにかね？突然質問してごめんね。さっきTが地面に描かれているものポートまたは車って言ったじゃない。これどこかな？」
- ・K「これポートじゃなくて、傘かな？」
- ・Y「傘だったらここに持ち手がないよ。」
- ・「わかった！ここに雨が降っていて、エッフェル塔の赤いペンキが落ちて地面が赤くなったんだよ！」
- 「そうかKすごいね！よっちゃん今びっくりしちゃった。すごいね！Yが木が横に生えてるってっていたのはどう思う？」
- ・T「木だと思う」
- ・Y「木が曲がっている」
- ・K「曲がっても塔より高くはないよ。」
- 「こうやって見ていくとみんなの考え方が広がっていて、驚いたよ！」





37分	<p>ふきだしにセリフを書いて貼り付ける</p>  <p>5 みんなで考えたセリフ</p> <p>左の天使「結婚のしるしにこの花束を受けて下さい、はいどうぞ！」 右の男性「今日は特別な日にしようよ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・K「ここは空想の世界だよ」 ○「みんなどこが一番気になる？最後にみんなでふきだしを考えよう」 ・T「妖精」・K「塔」・Y「妖精も気になるけど、横の木」 ○「この絵の世界はどういう世界かな？」 ・K「空想の世界」 ・Y「うーん（考えている）」 ・K「夢の中」 ・T「（今考えてる）」 ・K「（エッフェル塔が気になっている）この塔は完成していないから雨が降って地面が赤くなったんだよ。」 ○「新鮮な意見だね。他にみんなは木がわかんない、妖精もなぜ緑なのかな？この絵は色が不思議だね。」 ・K「空想の世界だから」 ○「そうかもね、最後にセリフを決めよう。セリフの札が3つじゃなくて2つしかないんだよ。みんなで決めようどれにする？」 ・みんな「妖精と愛し合っている二人にする」 ○「想像してそういうセリフがいいかな！」 ・Y「はいどうぞ！」 ・K「受け取ってください」 ・T「結婚のしるし」 ○「いいね、まとめるよ！（三人の意見をすべて足してふきだしに書き込む。）結婚のしるしにこの花束を受けて下さい、はいどうぞ！今度この二人にセリフをつけて！」 ・T「二人の名前をつけたい！」 ○「何て名前がいい？」 ・K「お父さん？」 ・T「ママ、パパ」 ・Y「男性はあなた、女性はみよこ、またはよしこ」 ・Y「女の人はダーリンと呼ぶ」 ・K「外国人？」 ・Y「顔がそう」 ・みんな「外国人」 ○鼻が高いね！ K「イギリス人みたい」 ○この二人何してる？ Y「抱き合ってる。」 ○「なんていっているかな？」 ・T「ありがとう」 ・K「うーん（考え込んで）」 ・T「むずかしい」 ・K「思いつかない」 ○「最初の時にTは結婚の幸せの場面って言っていたね。二人の口元を見て、口は閉じてる？」 ・K「男の人の口は空いている」 ・T「今日は特別な日にしよう」 ・K「妖精はやっぱりなにもはなしていないのでは？」 ○「三人とも目が合っていないね。妖精は話さないけど、もしかしたら心の中でいってるかもしれないね」 ・K「話さないけど、花束を渡してすぐ帰ろうとしているのでは？」 ○「こうやって見ているといろんなドラマがあるね」 ・K「エッフェル塔のペンキが雨で落ちているのに人は赤くないね」 ○「描いた人は空想で描いたからなんでもありだったんじゃない？」 ・K「夢の世界みたい」 ○「みんないろんなことに気がついてくれて本当に感じちゃう。この絵を描いた人に会って細部の話を聞いてみたいね。この絵を描いた人はきっとおもしろかったんだね。ずっと見てて飽きないね！」 ▼「はい、じゃそろそろまとめられましたかね？」 ・K「縦と横の写真を一緒にくっつけたんでは？だから木が横になってもおかしくない。」 ○「いい意見だね、みんな素晴らしい」 □（茂木先生）「セリフもう一つ書かないの？」 ○「これ書こうか？Tが考えてくれたのを！今日は特別な日にしようって書こうか！」 ・みんな「うん」
52分	最終的なセリフの決定	

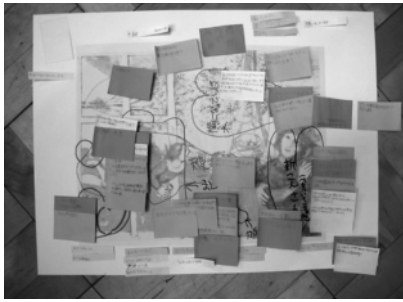
		○「よっちゃんはこの絵についてなにも知らなかったけど、みんなが教えてくれて本当にうれしかったよ。この絵は足立先生が前の授業でいっていたように、シャガールっていう人が描いたんだけど、この人が描いた絵のひとつは高崎にある群馬県立近代美術館にあるから、興味を持った人は見に行っただよ。」
--	--	--

山口班

○ファシリテータ：山口真央

教師には▼、子どもは・、ファシリテータは○、その他は□

時間	授業の展開・子どもの主な活動と写真	教師(コーディネーター)・ファシリテータ・子どもの発話とファシリテータの感想など
10分	   	<p>○「じゃあさっそく付箋を貼っていきましょうか。」</p> <p>□みんなで付箋を選び書き始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A「この絵の題名「エッフェル塔の夫婦」って言うんだよ。○○くんが言ったよ。」 ○「そうなんだ！よく知ってるね！」 ・B「そうだったの！私東京タワーだと思ってた！」 ・C「おれも！東京タワーだと思ってた！」 <p>□ネタばれした！…と思いましたが、子どもたちはあまり気にせず作業を続けていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A「題名が夫婦だからこの二人は恋人じゃなくて夫婦なんだよ。」 <p>○「じゃあ小さい付箋はここまでにして、今度は大きい付箋に考えたこととかわかったこととか書いてみようか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B「ええー！そんなの知らないよ。わかんない。」 ○「何がわからないのかな？じゃあねここ変だなとか疑問に思う事も書いて良いよ。」 ・B「そっか。はてな付ければ良いんだ。」 ○「例えば、色とかにも注目して良いと思うよ！」 <p>□それを聞いた子1が……</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A「この赤の色はね愛情が溢れてて、愛情を赤で描いたんだと思うの。」 ・B「子1ちゃん天才！そうよねえー素敵！！」 <p>□Bは手を合わせて感激しているように見えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A「だからこの絵はバラ色の世界なんだと思うの。それにみんな2人組のカップルがたくさんいるでしょ。」 ・C「でもさこの男の人振られてるよ。まっって一行かないでー！って感じだよ。」 <p>□Cが演技をしてみんなで笑った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A「ほんとだね。じゃあこっちの人が女の子じゃない。だってスカートはいてるもん。」 ○「なるほどね！そっかー！」 ・B「あっ！この人変だよ！」 <p>□左端の細々した所を見て言った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B「人が逆さになってる。」 ・A「きつとサーカスだと思うよ。」 ・C「売店だと思ってた。」 ・A「売店じゃないよ。だって馬乗ってる人もいるよ。」 ・C「そっかー。」 <ul style="list-style-type: none"> ・A「この世界はね自由な事をして良い世界なの。だから木だって横に生えてるし、寝てる人もいるし、地面でボートに乗っている人もいるでしょ。」 ○「なるほどね！そっかだから木も横から生えてるんだね！」 <ul style="list-style-type: none"> ・A「この夫婦はね新婚さんなんだよ。だってべったりしてるもん。」 ・B「ラブラブなんだよ。」 ・C「うん！きつとプロポーズしてる所なんだよ。それで天使が祝福しにきたんだよ。」 <ul style="list-style-type: none"> ・B「ねえー先生。あの班みたいに囲っても良い？」 ○「そうだね、囲ってみよう。好きな色使って良いよ。」 <p>□子どもたちが自主的に言ってくれて感謝しました。</p>



- ・ B 「じゃあハートで囲っちゃお！」
- ただ単に囲むのではなくハートで囲むなんて凄いなと思いました。そして、夫婦を囲った子が青で囲ってしまった後に。
- ・ B 「ああー！赤で囲えば良かった！」
- 赤で囲い直しても良いよ。と言いましたが、次の作業に移り修正することはありませんでした。少し残念でした。
- ・ A 「天使はさあー緑で囲う方が良いよね。全部ハートで囲っちゃお！」
- ・ C 「ええー！ハート！良いの!？」
- 「ハートで囲って良いよ。でもなんで天使は緑で囲うのかな？」
- ・ A 「だって優しい感じがするでしょ。」
- 「そっかあー!!凄いなあー!!」

- 子どもの豊かな情操に驚いた!!そんな中みんなとても楽しそうだった。
- 「そろそろセリフ考えてみようか。みんなどの人が気になるかな?どの人のセリフ考えたい?」
- ・ A : 夫婦が良い!
- ・ C : 天使が良い!
- : じゃあ吹き出し2つあるから夫婦と天使の2つでセリフ考えようか。
- ・ C 「きっと女の人が「愛してる。」って言って、男の人が「ああ俺もだ。」って言うんだよ。」
- 演技を交えて意見を言ってくれた。みんなで大爆笑!!
- Aは文章を書きながら、ハート書かなきゃと言ってセリフからラブラブな感じがでるように工夫していた。





- 「じゃあ天使のセリフも考えよっか。」
- ・ B 「天使はおめでとうって言ってるんだよ。」
- 「そっか!花束持ってるしね!じゃあこの右手に持ってるのは何だろうね。」
- ・ C 「お誕生日とかで鳴らすやつなんだっけ？」
- 「クラッカーのことかな？」
- ・ C 「そうそれだよ！」
- ・ D 「花瓶じゃないかな？」
- 「そっか!花瓶かもしれないよね!よく思いついたね!!凄いなあ！」
- 今まで物静かな D が自分から発言した一言だった!!嬉しかった!!
- ・ A 「でもさ、みんな赤で描いてあるのになんで花束は青でエッフェル塔の中の街は赤じゃないんだろう。」
- 「確かにね!よく気付いたね!何か意味するものがあるのかな!？」


- 結局何を持っているか意見がまとまらず、子1の疑問も解決しないまま時間が終わってしまい残念だった。しかし、天使のセリフは「お幸せに」で決まった。
- それからの活動は、班の発表とまとめて終わった。

遠藤班

○ファシリテータ：佐藤由貴・遠藤 翠

教師には▼、子どもは・、ファシリテータは○、その他は□




時間	授業の展開・子どもの主な活動と写真	教師(コーディネーター)・ファシリテータ・子どもの発話とファシリテータの感想など
開始 15分		<ul style="list-style-type: none"> ・児童の状況：小さい付箋に気付いたことを書き、貼っている。 ○「気付いたことを何でもいいから書いてね。」 ・A「真ん中におじさんがいる。」 ・B「なんか布みたいなのになっているね。」 ・C「岩なんじゃないかな。」 ○児童ひとりひとりが、自分の気付いたことを口に出しながら、日線に描いて貼っていた。細かいところにも、目を向けられていた。また、友達の見解を聞いて、それに対する自分の意見を言いあいながら話し合いが進められていたと思う。
20分	 小さい付箋	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の状況：大きい付箋に自分の考えを書き、貼っている。 ・C「真ん中の人、なんか持っているね。」 ・D「本なんじゃない？」 ・C「字みたいなのが書いてあるもんね。」 ○真ん中の男性が持っているものは、十戒という、神様の言葉が書いてある石板だということを伝える。 ・C「だから大切そうに持っているんだ。」 ○ここでの情報提供は、事前に話し合っていたことだったが、私の発言が児童の話し合いにより効果をもたらしたかどうかは、はっきりとわからなかった。
25分	持っているものは何？  どっちなんだろう	<ul style="list-style-type: none"> ・A「真ん中的人是十戒を受け取っている。」 ○「受け取っているのかな？渡しているようにも見える。」 ・A「どっちなんだろう。」 ・C「まわりの人達、うれしそう顔しているように見えない？だから受け取っているんじゃないかな。」 ○十戒を受け取っているのかどうかを考えるときには、自然とまわりのものや、絵全体の色などに着目することができていた。ここでは、私が口をはさむ隙がないくらい、話し合いが盛り上がっていた。
30分	 吹き出しどこに貼る？	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の状況：吹き出しをどこに貼るか決めている。 ・A「一番目立つのは、真ん中の人。」 ・B「右上の手の人重要じゃない？」 ・C「十戒を受け取っているんだから、真ん中の人だと思う。」 ○このときは、4人でしっかり話し合いができていたと思う。しばしば、CとDの間で話し合いが進められてしまうのではないかと心配してしまうこともあったが、Cが「他の人の意見も聞こう」といったことでA、Bも自分の考えを言うことができた。私は、感心してしまった。

35分	 <p>なんて言っているかな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の状況：吹き出しの言葉を考える。 ・C「この十戒の大切さを言わなきゃ。」 ・D「神様にもらったんだから、お礼を言おう。」 ・B「大切に守りますっていうのは？」 <p>○様々な意見が出たが、方向性が同じだったのでまとめることができた。どんどん言葉が飛び交い、私がついていくのが大変だった。時間がなくて、最終的な決定が急ぎ足になってしまったが、結果として一つの言葉になったので良かった。</p>
-----	---	---

吉崎班

○ファシリテータ：吉崎 希

教師には▼、子どもは・、ファシリテータは○、その他は□

時間	授業の展開・子どもの主な活動と写真	教師(コーディネーター)・ファシリテータ・子どもの発言とファシリテータの感想など
	<p>●白黒の絵に小さい付箋を使い、ぱっと見の印象や、不思議に思った事などを貼る。</p>  <p>見たものを端的に</p>	<p>生方、須田、石井、山中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Y「馬がいる。ヤギかな」 ・S「雲の中に人がいる」 ・U「この線は光かな」 ・S「うっすらと家がある」 ・I「人が下のほうにたくさんいるなあ」 ・S「子どもの手？」 ・U「天使みたいな人が何か持っている」 ・Y「子どももいる」 ・I「蠟燭を持っているのは教会の人かな？」
	 <p>付箋</p>	<p>気付いたことなどを貼っていくが、見ている部分がばらばらで、メインの人物（モーセ）についての意見が少ない。</p> <p>○「この真ん中の人は誰？どんな人？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S「不自由の男神」 ・U「巨人」 ・I「教会の代表者」 ・Y「角がある」 ・I「何か貰ってる」 ・U「文字が書いてある。本かな？」
	<p>●大きな付箋を使い、部分同士や別の部分と結びつけ、自分が考えたことを、理由と共に示す。</p>  <p>絵を見ながら</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・I「空から手がでていて、大きな人が天から何かを貰っていると思う」 ・U「普通の人（周りの人）より大きいから巨人」 ・Y「大人たちが、子どもを抱えながら集まってきていて、大きな人を見ている」 ・I「中心になっている人が村の代表者であり、天から何かを貰っている」 <p>○「この人は神様なの？代表者なの？なんでそう思う？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・U「本当はろうそくを持った人と同じくらいの大きさだけど、教会の代表だから大きく描いてある」 ・S「上の方は光っているし、雲の中にいるからこの手は神、真ん中の人も角みたいのが生えているから神」 ・Y「この人だけ服が白いから。周りの人は茶色ばかり」人物の大きさと服の色、角(冠)から、皆納得。



理由づけ

●吹き出し1に『文字ばんを下さい』と記入。

『人々のために、』を付け足し。

『(治りょう方法が書いてある)』を付け足し。



説明



意見交換

みんなで意見交換をしながら、吹き出しを書く。

●吹き出し2に『これを読んで人々の病気を治してあげなさい』と記入。



なぜ？だから？






吹き出しの完成 (IMG_6068.jpg)



- 「じゃあ何をしているところかな？」
- ・S「貰っている」
- ・U「文字が書いてあるから本だと思う」
- 「石の板に文字が書いてある、文字盤っていう物だよ」
- ・U「文字盤を貰っているところなんだ」
- ・Y「天の人から貰っている」
- 「なんで貰っているのかな？」
- ・I「人々のため」
- ・S「人々にあげるのかも」
- 「どうして人々のために文字盤を貰うの？何が人々のためになるのかな？」
- ・Y「人々が病気だからだと思う」
- ・I「きっと病気を治す方法が書いてあるんだよ」
- ・U「ここにいる人たちは病気なんだ」
- ・Y「子どもを抱えている人は自分の子どもが病気で、治してほしくてこの人に頼んでるんだ」
- ・I「上の方にある家は、街を表していて、病気が蔓延していて、死んでしまう人がたくさんいる」
- ・Y「死んだ人を天国に迎える天使もいる」
- ・S「天国に向かっている人もいる」
- 「じゃあ、この手の人はなんて言ってるのかな？」
- ・U「これを読んでください」
- ・I「病気を治してあげなさい」
- ・S「これを読んで人々の病気を治してあげなさい」
- 「じゃあ誰から貰ったのかな？」
- ・S「雲の上のもう死んじゃった人達かも」
- ・Y「手を繋いでいる子どももいるよ」
- ・U「右下の天使は薬を持ってきている」
- ・U「教会の人は祈っている」
- 「何を祈っているの？」
- ・U「はやく病気が治りますように、とか、治療方法を教えてくれてありがとうってゆう感謝の気持ちとか」

堀口班

○ファシリテータ：堀口由美恵

教師には▼、子どもは・、ファシリテータは○、その他は□

時間	授業の展開・子どもの主な活動と写真	教師(コーディネーター)・ファシリテータ・子どもの発言とファシリテータの感想など
3分	ファシリテータと改めて自己紹介をしよう。 絵に描かれていることを小さい付箋紙に書いて、手元の作品のモノクロコピーに貼る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ B の状況：一番早く、多く貼っている。 ○ファシリテータ「付箋がまだ全然貼れていない箇所があるから、まんべんなく見てみよう。」 ・ A 「左端遠く見てなかった。人が倒れている。怪我をしている」 ・ B 「死んでるんじゃないか。」 ・ A 「家族が死んでしまって悲しんでいるのでは」 ○「なぜ怪我をしいるんだろう。なぜ家事が怒ってるんだろうか。」 ・ B 「山羊が火をつけたのかもしれない。小さい山羊が街にいる。使い魔なんだ。」 ○「B君は山羊は悪い山羊だって考えてるけど、どう思う？付箋にあったけど、背中に人を乗せてるね。」 ・ D 「山羊は火事から人を助けているいい山羊かもしれない。」 ○山羊の背中と街の外の人々の苦しんでいる姿がリンクしないようで、話し合いが途切れた。戦争について仄めかしてみるが、話し合いのヒントにはならなかったように感じた。
5分	<p>どのようなシーンなのか、登場人物はどのような状態、気持ちなのか、大きな付箋紙に書いて貼る。 一通り貼ったところで、分類して、気になることを話し合っていく。</p>  <p style="text-align: center;">説明する A</p>  <p style="text-align: center;">お互いの意見を聞きあっている。</p> <p>この端の人が〜だから、と理由付けもしっかりできている。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ▼「どんな感じ？」 ・ A 「今、山羊が悪い山羊か話している。」 ▼この絵のタイトルは「戦争」であることを伝える。 ・ A 「何と戦争してるの？山羊と？」 ・ B 「だからきつと悪い山羊なんだ。」 ・ C 「山羊の背中に死刑にされている人がいる。この人が放火犯ではないか。」 ・ B 「背中の奴も仲間なんだよ。」 <p>○この時点で、全員が山羊に注目しているのでセリフは山羊につけると決めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いい山羊なのか悪い山羊なのか、どっちだろうね。Dちゃんはどう思う？」 ・ D 「大きな山羊はこの小さい山羊の幽霊で、街で飼われていたのかもしれない。」 ・ A 「山羊は街の人たちにいじめられていて、背中に乗せているのは自分に優しくしてくれた人たちのかもしれない。」 <p>○悪いともよいとも言えない、感情的な、人間らしい考え方ができたと感じた。しかし、3つ目の意見がでてきてしまったようで、まとめ方に悩んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ D 「人を助けてるから悪い山羊ではない。よい山羊か、いい人だけ助けているか、どちらかだと思う。」

	<p>○2つの意見になって、しばらく話し合う。3、4分前に2つのセリフをつけておけば良いと提案した。「2枚吹き出しがあるし、それぞれの意見に合わせたセリフをつけてみよう。」</p> <p>▼「採めたって事は、それだけ考えて話し合ったってことだからいいんですよ。」</p> <p>○セリフというと思いつかないのか、2つ貼るといふことに納得いかないのか、意見が出なくなってしまう。</p>
<p>説明を聞く</p> <p>最後にクラス全体で発表・感想 他の班の発表を聞き、最後に発表する。</p>	<p>B「2つの意見があつて決まらなかったが、沢山話し合った。」</p>
	
<p>発表する B</p>	

4.1 ファシリテータの感想

鈴木

今回私が担当したグループは比較的意見がまとまっており、話し合いとしてはスムーズに進みました。

しかし、ゼウスやハデスといったように明確な神様の名前が早々に出てきたこともあり、色々な方向に想像を膨らませられなかったように感じます。また、背景や色などメインのもの以外にほとんど話が及ばず、そういった点で上手く支援が出来なかったように思います。

加えて、神様の名前が分からない児童がおり、その児童にとってはグループで話し合っている物語がなかなか理解することが難しくなってしまうようです。(お話作り以外での役割(みんなの意見を付箋紙に書く)を勧めてみると話し合いにも参加するようになりましたが。)

最後の方では、つくった物語をさらに他のキャラクターに置き換え(ゼウス→夫、ハデス→妻という配役)、新しく物語を作り直し、物語を考えることが

楽しいということを感じていたようです。

金田

ファシリテータは先生(指導者)と生徒たちのかけ橋となるような立場で、生徒たちを補助する役目だと思っていました。しかし今回の授業を体験し、生徒たちから多くのことを教わりました。生徒たちは作品の題名を知らずに「エッフェル塔の夫婦」を鑑賞しました。私が「この地面が赤い色なのは、なんでだと思う？」と質問したところ、K君は「この絵の地面が赤い色なのは、この塔の赤いペンキが塗られたので、その色が地面に落ちて、赤い色になったのだと思う。」と、感想を言ってくれました。思いもよらない新鮮で素直な意見に胸が躍りました。私はこのように素直な気持ちで絵と向き合ったことが最近ありませんでした。絵を見る時に題名等を見てから鑑賞すると固定概念で作品と接することになり、絵を良く見ているようで、見ていなかったことに気づきました。そうです、生徒が先生になってくれたように思いました。

また、一人で鑑賞するよりも、コミュニケーションを図りながらグループで絵を鑑賞することは、絵をさらに良く鑑賞するのに大変効果的だと思います。さまざまな意見が出ることで、生徒みんなが考え、共通した意見に賛同したり、意見の違う場合は理由を話し合ったり出来ました。

鑑賞の授業は実技と比べ、固いイメージがありますが、茂木先生がおっしゃっていたように、「美術って楽しいものなんだよ!」と、ファシリテータが生徒たちをリラックスさせながら授業に参加し、みんなとグループ鑑賞することでみんなが発言したいことをおもいきり発表して、「ああ、今日の授業楽しかったな」と思ってもらえれば、大成功だと思います。そうすれば、この体験をもとにして、興味のある絵の本物を見に美術館にいつてみたい、美術っておもしろいな、もしくは絵を描いてみようかなと思う生徒が出てくると思います。

最後に生徒たちが鑑賞する目的だけではなく、グループの中で、自分の考えを伝えたり、友達の話の聞いたり、理由を述べて相手を賛成したり、反論したり、みんなの意見をまとめたりする人間形成に非常に大切な能力を養うこともできたので、今回の授業は大変意義があったと思っています。

山口

私は今回の公開研を含め3回ファシリテータとして参加させていただきましたが、参加してわかった事は、授業を進めていく上で大切なのは子どもの協力だなと思いました。私はファシリテータという役割も初めてだった子どもと接したのは2年くらいも前だったのでとても不安でした。しかし、いざ授業が始まると子どもたちが協力してくれて、私の問いかけにもすぐ反応してくれましたし本当にやりやすかったなと感謝しています。また、子どもたちの発想はとても豊かで、その発想を壊さないようにどのように問いかけたら良いか、発言しやすい雰囲気作り、どのようにリアクションするかが大切だなと思いました。教育実習へ行く前に良い勉強になったと思います。参加させていただきありがとうございました。

遠藤

今回ファシリテータとして参加しましたが、児童たちの話し合いは私がいなくても大丈夫だったのではないと思うくらい盛り上がっていました。しばしば話し合いが逸れてしまったときに軌道修正したり、少し情報を提供したりして、話し合いをスムーズに行おうとしましたが、とても難しかったです。ときには子どもたちの間で意見が合わなくて対立し、戸惑ってしまいました。しかし、子どもひとりひとりが自分の考えを持ち、それを発言することができていたので、充実した鑑賞活動になったと思います。私も、子どもたちと話し合う中で、たくさんの発見がありとても勉強になりました。ありがとうございました。

吉崎

最初は考えがまとまらずに、意見がばらばらだったが、ひとりの言葉で一気にグループの方向が決まっていた。ファシリテータとして、この話し合いをまとめながら、一人ひとりの考えを引き出すことが大切だと感じた。今回、比較的発言の少ない子から大きく展開していったのでそのことを強く感じた。

また、自分では思い浮かばないような考えや、様々な解釈の仕方に驚かされ、改めて子供の柔軟な発想と観察力の鋭さに感動した。人々が病気ではないのかという発想や、天にいる人はもう死んでしまっているという考え方などは、凄いなと思った。

堀口

最後までやらせてあげられなくて申し訳なく思う。途中から私が焦ってせかしてしまい、余計な雰囲気を作ってしまったかもかもしれない。

児童たちは、細部まで見つけ、背景が暗い、ここは山ではないか、と絵全体を見れていたと感じた。細部の気付きを拾って、「ではなぜここはこうなのだろう」と問いを返してみるなどもしたのだが、いまいちまとまっていかなかった。

私から離れた2人が少し発言が少なくなってしまう。しっかり考えているので、話を振るように

努力したが、中心にいた B 君が活発だったのでつい気を取られてしまった。

セリフをつけるという最終目的があっても、その過程にはこの絵の中で何が起きているのか、登場人物はどんな役割（性格）なのだろうか、と様々なことを考えられた。グループ活動の効果が出たと感じる。

4.2 児童の感想

- 私はやぎが、「ぼくを育ててくれたひとは助けるけど、ぼくをいじめた人はゆるさないぞ。」と言っていると思いました。最初見たときは何でやぎがいるんだろうと思ったけれど、鑑賞したら、人の気持ちややぎの気持ちがよく分かりました。よかったところは、4人全員が発表できたことで、意見が2つに分かれてしまったのがこまったけれど、いろんな感じ方があるなあと思いました。
- 絵ってというのは、何気なく見ていると「ああ、絵だ。」という気持ちにしかならないけれど、細かくみんなと一緒にさがしてみると、物語が見えてくるんだなあと思いました。
- 絵は、現実にはないような表現ができるのですすごいと思った。班の人と話し合い、意見はそれぞれ分かれたけど、私の発想では、みんなの一生懸命な姿を見て、天からのごほうびをもらい、その後、みんなが幸せになったように思えた。
- 想像することで、最初のイメージとちがうイメージがわいてきた。意見が分かるとまようけど、ほかの意見に「なるほど」と思う。グループで鑑賞すると、自分が思いつかないほかの意見も出てくる。意見が分かればはり合うと、いつまでも決まらなくて困るけど、ほかの人の意見で行動（絵の中の）が分かるのがいい。
- 最初は火が燃えているのだけ見ると「火事かな？」と思ったけれど、グループの意見を聞いて「やっぱり戦争なんだ！」と思いました。今は意見が分かれているので気持ちもややもやしているけれど、これからはがんばっていきたいです。今日の学習で分かったことは、話し合うと違う考え方になるということです。

- エッフェル塔の横に木があって、なぜ木が逆さまになっているのかが分からなかったけど、友達の意見を聞いて、この絵の世界は、好きなことをしていいところではないかと、よく分かってよかった。この緑の天使は、花たばをもってこの二人の夫婦を祝っている天使で、二人は「ずっと仲良くしようね。」という思いがあって、背景がバラ色の二人の思い出がかかれているということが分かった。友達の意見を聞いて、このようにまとめられて、絵にはこんな思いが描かれているのだなあとかわしく分かった。
- 最初にぱっと見ると、細かく見ていくのでは、イメージがぜんぜん違うことが分かった。細かく見ていくと、この人はこういうことをやっているというのが何となく想像できる。周りの様子から、この人は、こういうふうに思っているというのが考えられるということが分かった。想像の絵は、現実にはないものがあって面白い。普段何気なく見ている絵でも、じっくり見ると、いろんな意味があるんだと思う。
- 同じ絵でも、見る人やその人の気持ちが一人一人違うので、いろいろな感じに見えるのだなあ気付きました。絵は目で見るのではなく、心で見ているから、同じ絵でも、見る人がちがってれば、感じ方もちがうなと考えました。これから絵を見るときは、自分だけの気持ちだけじゃなく、ほかの人の意見を聞いてみることも大切だなとわかりました。一つの絵をじっくり見て、その絵を十分楽しむことができたので良かったです。

5. まとめ—実践の成果と問題点—

ワークショップ型の学習形態の実践を重ねてきて、図画工作科の教科特性との親和性が高いことを、児童の変容を目の当たりにして強く感じてきた。それは、ワークショップ型学習が、それまで築いてきた児童相互の関係性を新しくつくりかえるきっかけをつくり、集団を活気づかせる効果をもっていること、協同的な作業によって、普段の学習で発言に消極的で集団の中に埋没しがちな児童が、積極的に友

達や対象に働きかけ、学習を方向付けるような発言をする姿を見せることなどに、そのよさを見出してきたからである。そしてこの成果は、ファシリテータの活用や学習活動・教材の工夫、環境構成の工夫など、ヒト・モノ・空間をトータルして学習環境をデザインすることで実現できるという分析を得てきた。

しかし、このような成果も、本校の実践では、表現領域の協同製作題材に限られてきた。鑑賞は、協同製作のように一つの形にまとめなければならないという内容と異なり、一人一人が自分なりの解釈をもつことが許容される。果たして鑑賞において、ワークショップ型学習が、協同製作題材と同様の成果をあげることができるか疑問もあった。反面、経験や知識の乏しい子供たちが、多様な見方や感じ方に触れながら鑑賞することで、より深く作品のよさや美しさを味わうことができるだろうという期待もあった。

そこで、本実践では、グループ活動の中で、これまで学習に消極的だった児童が積極的な参加を見せるのか、第2時から3・4時にかけて、グループの児童間の関係性にどのような変化があるかの2点に注目した。さらに、従来型の学校教育がかかえる評価の難しさ、とりわけ、多様な答えが許容される拡散型の特性をもつ教科等における評価のあり方を探ることも目的の一つであった。

評価については、ファシリテータに①関心・意欲・態度、②鑑賞の能力、③他者との関係性（受容的態度）、④他者との関係性（リーダー性）から細分化した評価項目について評価を依頼した。併せて、ファシリテータにグループ全体の活動の流れをレポートにまとめてもらった。それに加えて、絵に貼りつけた付箋紙への書き込み、教師のみとり、学習後の感想を総合した結果、以下のような成果が得られた。

まず、これまでの学習の中で、積極的に学習に取り組めなかった児童のうち数人は、この活動の中で顕著な積極性がみられ、学習後の感想にも具体的な記述がなされていたことが挙げられる。この中には、図画工作科のような創造的でゴールフリーな教科に苦手意識をもち、発想が広がらない傾向の児童が多

く、ワークショップ型学習による鑑賞活動によって、学習活動への積極的な参加がうながされ、そのことによって見方や感じ方が深まったことがみてとれた。

一方で、同様にこれまで積極的に学習に取り組めなかった児童のうち、上述した児童を除くと顕著な積極性はみられなかった。友達の意見を受容的に受け止めながら鑑賞する傾向が強かった。そして、ファシリテータが発言をうながすと自分の考えをきちんと答えられていた。このような児童は、他者の意見に触発され、自己の見方を深めていく傾向があるようである。

以上のことから、ワークショップ型学習とそれに伴うファシリテータの導入により、児童の積極的な参加がうながされ、個々の見方や感じ方が深まっていくことが分かる。

児童相互の関係性に目を向けた場合、第3・4時における劇づくりでの話合いの深まりを取り上げたい。クラス替えにより、友達同士の関係が希薄だった学級の話合いにはそれまで遠慮がみられたが、劇づくりにおいては、簡単な舞台や道具作りをしたり、台本を考えたりする際の話し合う時間が短縮され、話題がそれるグループは見られなかった。その中で特徴的だったことは、自分の意見を主張したり聞いたりするだけでなく、積極的にファシリテータ役を務め、多様な意見を引き出そうとしたり、友達の意見を注意深く聞くよううながしたりする児童が、複数のグループで現われたことである。学習後の感想の中には、およそ3分の1の児童が、多様な考えに触れながら自分の考えを深めていくことのよさを感じ、記述していた。このことから、児童の関係性に変化がもたらされ、それによって見方や感じ方が深まること、ファシリテータの行動をモデルとして、他者とのよりよいかかわり方や集団の中で果たす役割を学んでいくこと、そして、児童自身がそのことのよさを実感していることが明らかになった。

本実践では、他者との違いが許容される鑑賞活動の中に、協同して取り組む仕かけを取り入れ、第2時には登場人物の台詞を、第3・4時には作品が表す舞台や時代、ストーリー等を、それぞれの活動の中

で絞っていく学習をデザインした。しかし、ゴールをオープンにするか、クローズにするかということについては、最後まで迷いがあった。これは、他者との関係の中でより広く、深く見たり感じ取ったりするどころか、ともすると鑑賞がもつ自由度が阻害されてしまうからである。学習環境をデザインするにあたっては、この点に十分留意しなければならない。(足達)

最後に、研究のコーディネータとしての感想を述べて、拙稿のまとめにかきたい。

前稿にも記したが³⁾、本研究は縮小していく造形美術教育の再構築のために、情報メディア時代に適応した「新しい表現の学び」として、ワークショップ、つまり参加体験型協同学習の可能性について検討し、学校教育へのワークショップ型学習の導入のメリットを研究することである。ワークショップは「知識は人々の社会的な関係性の中で構成され、学習とは知識の受動的な蓄積という個人の内的プロセスではなく、学習者が他者との相互作用を通じて知識を構成していく社会的行為である」という社会構成主義や「本来学びは文化共同体への参加という人間の文化的・社会的実践である」という状況的学習を理論的基盤に持つ学習である。

昨年の研究では、今までのワークショップの題材開発の積み重ねの上に、ワークショップの学習環境のデザインを構成する要素(空間、活動、道具、人)の内、それを根本から支える人＝ファシリテータの授業への活用を試みた。表現題材のコラボレーションは、一定の成果は得られたがまだまだ問題点も多く見られた。特に、表現題材の特色である、①アイデア→話し合い、②合意→制作には時間がかかることがあげられる。そこでは題材自体を(ある程度)ゴールフリーなものにしないとなかなかみんなが満足するものにならないという問題があった。さらに、ファシリテータの経験値(ファシリテーション力や美術的能力など)の高さにどうしても左右されてしまうので、問題をより複雑にしている。

今回の美術鑑賞の題材は、①話し合い、それ自体にウェイトがあるので、表現題材よりもむしろワークショップ型学習がスムーズにいったような気がす

る。つまり、段階を踏んで対話(話し合い)活動がプログレッシブに進行していったからである。表現(協同画)の時に見られた、全破壊のような場面がなく、比較的自由に意見を言うことができ、それをグループの中で共有しながら、授業を進められたのではなかろうか。ファシリテータも今回取りあげた「シャガール(の絵画)」について、それほど深い理解はなかったが、参加児童と一緒に考え、相補的に(鑑賞)活動が進んでいった様子が、まとめによく出ている。

(これも前稿で触れたが)ひとり一人の個性や表現・感性等を重視し、それをみとることを目的にした図工美術教育が、40人近くの児童を教師(指導者)一人でカバーするのは事実上不可能であり、8グループに8人のファシリテータが入ったことで、教師の活動を自身がメタ認知できるメリットは有効に作用した。昨年度は、足達教諭自身がまだファシリテータを使うことや全体の授業コーディネータとしての立ち位置を明確にできず、自身がファシリテータになってしまったり、急に教師然としてしまったり、迷いが見られたが、今回はメタな視点の活用が意識的に行えたのではないだろうか。教室の唯一の指導者としての教師が外部からクラスの外部の第3者を迎え入れ、彼らと協同して学習を進めるとするのは難しいことだと思うが、今後の社会を見据えるとそういうことの必要性(必然性)は明らかであり、学校はいい意味でもっと開かれるべきであろう。

また、前稿で「ワークショップが通常見知らぬ初対面の者同士が出会い、自己の殻を破り、自己を解放し、新たな自分を発見したりする活動で、学校教育において、(いつも顔を合わせている)クラスの中でワークショップを行うことにはどんな意味や意義があるのか」について触れたが、この美術鑑賞、つまり(自己による)「物語る」活動の場合には既知の友人であってもいかに異なった意見を持っているのか、彼らの多面性を相互に認め、磨き高め合うということが実感として理解された。すなわち、会話が対話に変容していくことのプロセスを楽しんだのではないだろうか。児童の関係性の変化という足達教諭の着眼点は、今回の実践の成果を言い当てている

ように思った。

最後に、授業後（茂木のアドバイスも考慮して）鑑賞活動が表現（絵を劇化する）へと進んでいき、それが非常に自然になされたという、足達教諭の感想があったが、これも重要な問題点を提示する。表現へ片寄った美術指導の反省から、現在鑑賞教育が非常に盛んに研究されているが、小中学校の鑑賞教育をパターン化してしまわないように注意が必要である。ことさら表現を無視したり、避ける必要はなく、表現と鑑賞（批評）が相補的で相乗的な関係を持つ必要があり、よりダイナミックな取り扱いが今求められている。コンセプト（考え）を大切に、（美術文化）のエッセンスをからだ全体で受け止め、返す。そんな実践題材の開発を今後ともやっていきたいと思う。（茂木）

註

1) 茂木一司他5名「図画工作教育へのワークショップ型学習の導入の試み—群馬大学教育学部附属小学校の事例—」

群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編、45、2010、pp.39-63

2) ①茂木一司・福本謹一・佐藤優香・阿部寿文・直江俊雄・永守基樹・宮野 周「情報メディア時代の新しい表現の学び—造形・メディア・ワークショップにおけるファシリテータの役割と共同的学びの事例—」大学美術教育学会誌、No. 38、359-366頁、2006

② Kazuji MOGI, Kinichi FUKUMOTO, Motoki NAGAMORI, Toshifumi ABE, Toshio NAOE, Yuuka SATO, “Implications of Media-Technology-Based Workshops for Art Education for All”, Edited by Teresa Eça, International Dialogues about Visual Culture, Education and Art, Rachel Mason, Intellect

③下原美保・山本みどり・茂木一司「絵巻をつかったワークショップの実践研究—「なりきりえまき」を例として—」大学美術教育学会誌、No.39、159-166頁、2007

④ Kazuji MOGI, Miho SHIMOHARA, Narikiri “The Narikiri Emaki (Picture scroll) project” International Journal of Education through Art, Vol. 4 No. 4, pp.7-27, 2008、など。

3) 前掲書 1)